医療法人協治会 杠葉病院

のびのびリング

2015 新春 第6号

http://www.yuzuriha.or.jp/　編集発行：医療法人協治会　杠葉病院　☎095-878-3734

福岡県太宰府天満宮にて撮影

認知症専門医 葉室 篤先生 の「認知症講演会」が開催されました！

平成26年11月11日(火)、18:30より杠葉病院　院内研修ホールにて認知症専門医である葉室篤先生の「認知症講演会」が開催されました。葉室篤先生の講演は、長崎県下で初めての講演ともあり注目度も高く、長崎市南部地域の介護保険施設職員の皆様や地域のケアマネージャー、南部地域の地域包括支援センター等の方々が遅い時間帯にもかかわらず多数の参加をして頂きました。

『結局、認知症とは何なのか？～看護と介護について～』という題目で、特別講演が始まり、座長を当院の矢次正東院長が務め、穏やかな雰囲気のなかで始まりました。

今回の講演では、大きく３つのポイントがありました。まず１つ目に、「認知症と年相応の境とは？」という事で、良いもの忘れ(日常生活に支障はきたさず、体験の一部を忘れる）と悪いもの忘れ(日常生活に支障をきたし、体験の全部を忘れてしまう)があり、認知症とは、「体験の全部を忘れ、今まで意識することなくやれていたことが出来なくなる病い」である。

２つ目に、認知症の治療として非薬物療法(環境面の整備)に着目し、患者様への接し方で周辺症状が落ち着く場合がある事。また、介護保険での福祉サービスを利用することで家族の介護負担を軽減してあげること。

３つ目に、具体的な症状（幻覚や妄想）に合わせて、良い対応の仕方と悪い対応の仕方の紹介があり、本人の気持ちに寄り添えるような対応法の紹介がありました。

講演後のアンケートの中に、「もっと多くの方に聞く（葉室先生の講演）機会を与えてほしい」「認知症の方に杠葉病院にはとても相談をしやすいＤｒやスタッフがいる。と紹介できます」等、ありがたいお言葉を多数頂きました。今後も、地域向けの講演会を定期的に行い、南部地域で「顔の見える関係」を構築し認知症診療に貢献できればと思っております。

病院理念

患者様本位の医療と看護

基本方針

一、人間としての尊厳と生活の質を重視した全人的なケアの提供

二、地域社会との連携を目指した医療・看護サービスの提供

三、職員の専門知識の向上による医療・看護の充実

第 3 回『精神科治療について考える会』が開催されました

平成 26 年 11 月 18 日（火）、18:30 から杠葉病院　管理棟 2F 研修ホールにて、第 3 回『精神科治療について考える会』が開催されました。
今回で 3 回目の開催になりましたが、一般講演を当院　薬剤師　米澤　健先生に『抗精神病薬と転倒のリスクについて』講演をして頂きました。

次に特別講演として、久留米大学医学部神経精神医学講座　講師　小路純央先生『精神疾患と身体合併症～薬剤の影響も含めて～』の講演がありました。「統合失調症の方は、一般の方より年齢を増すことで糖尿病合併頻度が上がること」「高血圧の方はうつ病合併頻度が高い傾向がある」、「肥満・メタボリックなど生活習慣病にもなりやすい」傾向があることから、快眠・快便・快食・快運の“4 つの快”の大切さをお話し頂きました。

2014 年 6 月に横浜市で開催されました第 110 回精神神経学会のシンポジウム「精神と栄養」にて講演を行いました。

精神疾患と栄養

近年、鬱や統合失調症等の精神疾患の方では、食生活を含めた不規則な生活サイクルや治療薬の副作用等によって身体合併症を生じやすいことや、生活習慣病が鬱病のリスクを高める……等の精神疾患と身体疾患間での関連性が指摘されています。また、偏食などに伴う栄養素摂取バランスの崩れは、身体機能だけではなく精神機能にも影響を与えることが知られています。

自身の食生活について、ゆっくり考える暇もない昨今のご時世ではありますが、日々の食生活は心身の健康を創るもの。バランスのとれた食事を心がけましょう。

九州山口薬学会 論文奨励賞 受賞報告　米澤　健

平成 26 年 11 月に長崎県で第 76 回九州山口薬学大会が開催され、論文奨励賞を受賞致しましたのでご報告します。同賞は、平成 25 年度の九州山口薬学会報誌に受理された査読論文の中から 1 論文が選考され、表彰されるものです。

受賞対象の論文、「杠葉病院における抗精神病薬と抗パーキンソン薬の投与量推移に関する検討」は、当院の薬剤処方状況について検討を行ったものです。わが国では、諸外国と比較して薬剤の多剤併用・大量投与が多い傾向にありますが、多剤併用・大量投与による精神科薬物療法は錐体外路系や内分泌系、循環器系などに関連する副作用リスクを高めることが知られております。そこで本研究は、当院の向精神薬の処方状況を把握した上で、より最適な薬物療法設計への協力を目的として実施し、結果として当院の精神科薬物の処方量と剤数は共に減少傾向にあることを統計学的に示しました。本論文では以上の内容を発表しましたが、その後に看護師と共同で実施しました研究で転倒・転落事故との関連性に関するデータが得られており、後日に改めて論文として報告させて頂きたいと考えております。

患者様へのより質の高い医療の提供を目指して、日々精進致しますので今後とも御指導・ご鞭撻のほどを宜しくお願いします。最後になりましたが、本研究の実施にあたり、御指導ご協力を頂きました方々に心から感謝致します。

論文奨励賞

医療法人協治会　杠葉病院薬剤部

米澤　健　松永倫代　庭　暖子
小林啓子　秋永たまみ

九州薬学会会報第67号掲載の書著
「杠葉病院における抗精神病薬と抗パーキンソン薬の投与量推移に関する検討」

は目標の研鑽の成果が示された優秀な論文であると認められました
よって、これを賞します

平成26年11月23日

九州山口薬学会
会頭　佐々木　[illegible]

第 53 回藤村薬品杯ソフトボール大会に参加しました！

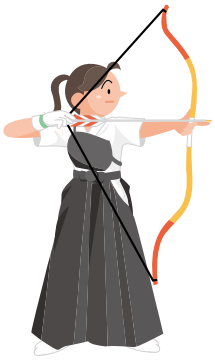
平成 26 年 9 月 23 日（秋分の日）に、毎年恒例の病院対抗ソフトボール大会に参加しました。今年は、激戦のパートに入りこみ苦戦の連続でしたが、次々に強敵相手を撃破しました。パート優勝をかけての決勝戦へ進出しましたが、最後の最後で力尽きサヨナラ負け。3 年ぶりの県大会出場を逃しましたが、例年にない感動とチームの結束力を感じた大会でした。

長崎がんばらんば国体 弓道競技会結果報告

10 月 12 日より開催されておりました長崎がんばらんば国体に、病院、病棟のご協力を頂きながら参加させていただきました。結果をご報告させていただきます。

今回私は選手兼特別支援コーチ（医療・メンタルヘルス・ドーピング対策）として参加し、選手として競技に出場する機会はなかったものの、支援コーチとして主に活動しました。

競技結果　**成年男子：近的６位入賞　成年女子：遠的６位入賞　少年男子：遠的８位入賞**



長崎県選手団として上記の結果を残すことができました。私が長崎県選手団の一員として国体に参加できているのも病院関係者、病棟スタッフのご理解、ご協力のおかげであります。本当にありがとうございました。

今後も職務を全うしながら、院外活動も精力的に行っていきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

高齢者こころのケアセンター桜花病棟
看護主任　若浦雄也

桜花病棟便り

生活機能回復訓練について

桜花病棟における生活機能回復訓練とは？患者様の心身機能の低下を予防し、維持、改善する為に行われる「リハビリテーション」のことです。
認知症を患った為に、これまでに一人で出来ていたことが出来なくなった、分からなくなった、やらなくなった、など日常の生活を営むことが難しくなった方が入院しています。
そんな患者様に対して、看護スタッフ、介護スタッフと共に作業療法士が一緒になり、専門職の知識とスキルを用いて、個々の患者様の心身機能へのケアと訓練を行っています。1 日を通して日々営まれる生活行為（食事・排泄・入浴）を看護・介護スタッフがケアと共に個別のアプローチを行っています。加えて作業療法士が集団活動（レクリエーション活動）を通して、他者との交流（顔なじみ）、活動意欲の引き出し（やる気）、固定された活動（安定した生活リズム）を図り、心身機能の賦活を促します。又、個々の身体機能への関わりとしての関節拘縮予防、個々の認知機能の維持・低下予防としての日付確認（見当識強化）、計算学習（脳トレーニング）、創作（作業機能の維持）など行っています。
安心・馴染みの顔として、一人ひとりの顔をみながら、肌に触れながら、挨拶と声掛けを心がけて日々活動しています。
例えば、レクリエーション活動（ゲーム）は、顔馴染みを作り、個別の運動訓練（歩く・立つ・投げる等）となり、成功体験による心の賦活（得点できて嬉しい、勝った負けた等）、脳トレーニング（得点の集計・計算）の要素が含まれています。これらを固定日に実施することで、生活リズムが整い楽しみに繋がります。
「心が元気になれば体も元気になる」「体が動けば心も動く」、心身の賦活によって、認知機能・身体機能の低下予防と維持・向上を図ります。

B2 病棟紹介

病棟師長　川口英樹さん

B-2 病棟は、男女混合の精神療養病棟です。

私たちの病棟は、主に統合失調症・双極性障害ほか様々な精神疾患を抱えておられ、長期で入院されている患者さんが多いというのが 1 つの特徴です。

職員は、看護職員 10 名、介護士 11 名で構成され、その他病棟担当の作業療法士や精神保健福祉士など、様々な職種の協力を得て、病棟目標である「“思いやり（協力・協調）”と“笑顔”を絶やさない病棟」を目指し、日々、患者さんの療養生活の看護・介護をさせて頂いています。

療養生活については、それぞれのご希望に沿った生活を送って頂けるように患者さん、職員からの提案による、お花見・観劇会・温泉ツアー・デイキャンプ・バーベキュー大会・かき氷大会などを開催しています。

また快適な療養生活を支援するよう心がけていますが、患者さん全員の意見を取り入れる事ができない場合は、どこかで折り合いを見つけながら個別に対応しています。

今後も患者の皆様が安心して療養生活が送れるようスタッフ一同、頑張っていきます。

「出張相談」いたします ～こころのかぜひいていませんか？～

「最近、眠れない」「毎日、ゆううつで何もしたくない」「仕事でのストレスで体調がすぐれない」
「最近、親が物忘れがひどくなった」等、誰にも悩みを話せない・・・でもどうにかしたい！
そのような悩みがあれば、私たちからご自宅等へ出向きお話を聞かせて下さい。
一緒にお悩みを共有しながら、「こころの元気」を取り戻すお手伝いをさせて下さい。
※まずは、お気軽にお電話下さい。(相談内容によっては、ご依頼できない場合もございますのでご了承ください。)

連絡先
電話受付：平日（月～金）（10:00 ～ 16:00）（予約制）
お問い合わせ：(095) 878-3734　事務総務課　担当：吉田形（よしだがた）、地域生活支援課　担当：冨永

地域生活支援課からのお知らせ

～患者様とご家族の方へ～

外来受診や入院相談に関しては、
地域生活支援課のソーシャルワーカーが対応します。
ささいな事でも構いませんので、お気軽にご相談ください。

～医療機関および施設の方へ～

地域医療連携の窓口として
「地域生活支援課」が、お話をうかがいますので、
ぜひご利用ください。

受付時間：8:50 ～ 17:10　電話 **095-878-3734**（代表）ファックス **095-878-3289**（代表）

杠葉病院は、大正13年に創設された精神科の医療機関です。
長崎市南部の緑豊かな環境の中、地域に根差した医療を心がけています。
職員一同、「患者様本位の医療と看護」の理念に基づいた人間的温かみのある
医療サービスの提供に努めます。

診療科目

**精神科・心療内科・内科・歯科・
歯科口腔外科・矯正歯科**

病床数

355床

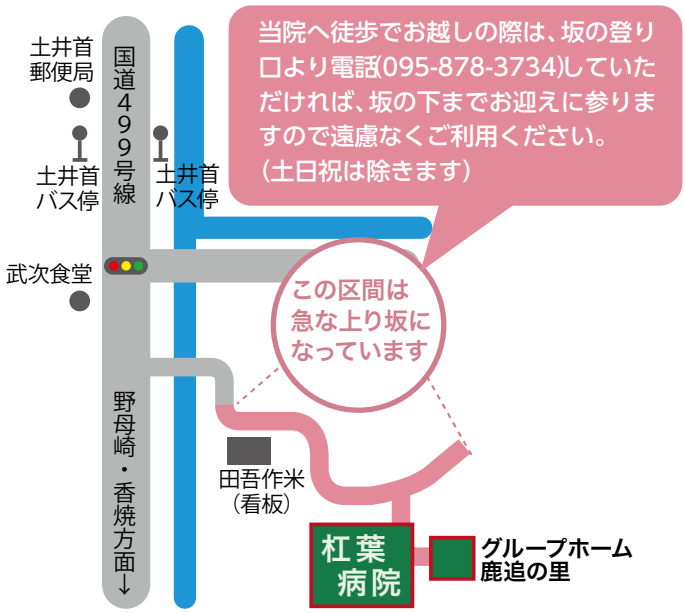
アクセス

長崎バス
30番系統に乗車　（深堀・香焼・野母崎方面行き）
土井首バス停下車　徒歩およそ10分

クルマ
国道499号下り線土井首バス停の次の信号の先を左折
（田吾作米の看板が目印）
長崎駅・大波止ターミナルからは、野母崎・香焼方面に向け
国道499号線沿いをおよそ30分走行

駐車場

100台



医療法人協治会　杠葉病院
〒850-0975 長崎県長崎市三和町413番地　杠葉病院　検索　http://www.yuzuriha.or.jp/
TEL 095-878-3734　FAX 095-878-3289

編集後記
みなさまの温かいご支援により、「のびのびリング」も創刊一周年を無事に迎えることができました。
これからも、分かりやすく親しまれる広報誌を目指して努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。